

組合の楽しい便り投稿歓迎します。

ラベルニュース

No479



令和 7 年 12 月号

東京都ラベル印刷協同組合

〒111-0051 東京都台東区蔵前 4-16-4

編集:広報・情報システム化委員会

TEL(3866)4561 FAX(5821)6443

第 67 回年次大会大阪大会

全国から 320 名が参加盛大に

業界の未来を力強く切り開こう

全日本シール印刷協同組合連合会(田中祐会長)主催の「第六十七回年次大会大阪大会」は、十月二十四日(金)に、「シエラトン都ホテル大阪」に於いて開催されました。

今大会はシール印刷大阪府協同組合の担当で「大阪シールの陣いのち輝く未来の業界のデザイン」を大会テーマに開催さ



320 名が参加した第 67 回年次大会・大阪大会



ラベルコンテスト会場にも多くの人が



大阪プロレスとタレントショーで盛り上がった懇親会会場



れ、全国から組合員・会友、協賛会、ご来賓を含め三二〇名が参加しました。

大会は国歌斉唱から始まり、先輩物故者に黙とう、ご来賓の紹介の後担当協組の坂田康司理事長が「ラベル業界が明るい未来となるべく今大会がそのきっかけとなることを願う」と開会の辞を述べました。

続いて田中祐連合会会長が「ラベル業界は需要と供給のバランスが崩れ価格競争が激化している。しかしこのような厳しい環境の中でも組合活動を通じて

得られる仲間との交流や情報交換は大きな支えとなっている。本大会が皆様にとって笑顔溢れる交流の場となることを願っています」と挨拶しました。

この後ご来賓挨拶と続き経済産業省近畿経済局サード・ビジネス・コンテツ産業室長の遠藤浩規室長、大阪府商工労働部中小企業支援室のづくり支援課の山本芳生課長補佐、大阪市経済戦略局産業振興部産業振興課の長濱寛課長代理、日本印刷産業連合会の高島淳一常務理事、全日本シール印刷

協賛会の服部真会長、大阪府中小企業団体中央会の谷山真紀子事務局長らが挨拶しました。

さらに連合会報告、祝電披露の後、功労者顕彰、優良従業員表彰と続き、第三十五回シール・ラベルコンテストの入賞作品表彰があり、大阪の青年部長湯浅督一郎長の大会宣言がありました。

大会宣言の後、次回担当

大 会 宣 言

本日多くの皆さまのご臨席を賜り、この佳き日に「第67回年次大会・大阪大会」を開催することができました。

本大会は全国の組合員、会友、協賛会員が集い、親交を深め、新たなご縁を築き、業界の未来を展望する意義深い催しであります。コロナ禍で一旦途絶えてはいましたが、その後私たちは金沢において「温故知新」の精神を、神奈川においては「原点回帰」の思いを胸に、大会を重ねてまいりました。

そして本日、大阪市上本町シェラトン都ホテル大阪にて開催される本大会は、「大阪シールの陣・いのち輝く 未来の業界のデザイン」をコンセプトに掲げ、大阪・関西万国博覧会の熱気を受け継ぎながら、業界の未来を力強く切り拓く大会として実施いたします。

私たちはすべての参加者の皆様を心から歓迎するとともに、業界の発展と社会への貢献を使命として、全員が一致団結し、新たな飛躍を目指すことをここに誓います。そしてこの大会を通じて、結束の力を高め、業界の未来を担う礎を築いてまいります。

本大会が業界のさらなる発展に向けた大いなるきっかけになることを心より願い、大会宣言といたします。

令和7年10月24日

シール印刷大阪府協同組合青年部

協組を代表して当協組の北島憲高理事長が「次回は来年十月十六日(金)に、東京ビッグサイトに於いて開催予定で、「ラベルフォーラムジャパン二〇二六」も開催されますので、どうかまた東京でお会いしましょう」と閉会の辞を述べました。

式典終了後午後五時から懇親会が開かれ、小原隆副理事長と清水順専務理事

第三十五回シール・ラベルコンテストは、今回全

「大阪締め」で幕となりました。臣官房商務・サービス審議官賞を受賞しました。

の漫才で幕が開くという演出で、坂田康司理事長が登壇して全員で乾杯しました。懇親会は大阪らしい笑いが詰まった内容となり、コメディアンや大阪プロレスのショーなどで大いに盛り上がり、最後は森山健二副理事長など役員が登壇し「大阪締め」で幕となりました。国六十社から一〇三作品の応募があり、自由課題三十作品、規定課題六十八作品(平圧二十三、輪転四十品)の中から、第二次審査まで行われ、最高の経済産業大臣賞にはタカラが受賞しました。ちなみに当組合からは三社、六作品が出品され、サンメックが産業大臣官房商務・サービス審議官賞を受賞しました。

東洋化学商会発売

植物由来の剥離スプレー

(株)東洋化学商会(江東区亀戸九の三十七の一)は、三八五―四三五―では、頑固なシール・テープを一気に除去!植物由来の剥離スプレー「剥(はく)」を発売しています。

糊・テープ・シール・ラベル剥離 ホットメルト(EVA 洗浄剤)有機剤・PRT法非該当の安心設計。

特徴としては

①2種類の強力洗浄成分が頑固な接着剤をスピーディーに溶解

②植物由来剥離剤を使用し、環境と作業者にやさしい設計

③有規則・PRT法非該当で安心してご利用可能
四二〇ml入り。

問い合わせは組合事務局まで。



団体連携型 DX 人材育成事業 中小企業のための DX セミナー AI や ChatGPT について学ぶ

組合主催の「中小企業のためのDXセミナー」が、十一月十一日（火）午後五時より、台東区神田佐久間町の会議室インスタベースにおいて開催され、組合員十五名が参加しました。今回のセミナーは東京都の補助金事業である団体連携型DX人材育成推進事業で、組合等が組合員等に対して行うDX人材の育成に關する取り組みに要する経費の一部が東京都から助成されています。

当日は講師にジャイロ総合コンサルティング㈱の



DX セミナーについて学びました



講師の露英一氏

露英一（つゆ・ひでかず）氏は講師に『DXとは何か、AIやChatGPTでいったい私たちの何が変わるのか』について一時間半に亘って勉強しました。

露講師は「生成AIは誰が使おうことのできる便利な道具であり、人間のよう

に考えて学ぶコンピュータです。そもそも生成AIとはLLM（大規模言語モデル）と言われ、膨大な量の文章を学習し、人間のよう

に自然な文章を創り出した

り、内容を理解したりできる非常に賢いAIのこと」と説明し、AIのもつとも代表的なChatGPTを使ってほしいと、その場で参加者にChatGPTをスマホにダウンロードさせて、さらにその使い方を説明しました。

「いきなり頂上を目指す必要はない。全社でのDX・業務アプリを作る。ま

ずはAIに触ってみる（一合目）から。経営者がやると決めること。自社のDX戦略を自分の言葉で発信することが大事になる」

最後に「AI活用は今後必須になることは間違いない。DXを推進している企業とそうでない企業との差は、すでに大きく開いています。AIを使いこなせるか、使いこなせないかで大きな差が出てくる可能性が高い。会社にAIを活用できる人材を一人でも多く抱えることが重要」と締めくくりました。

DXの第一歩はAIの活用であり、ChatGPTの利用であり、取り組み方、利用方法が分からなければ、ChatGPTに聞きながらできるといのが大きな特徴で、すでにChatGPTで文章を作成している人も多く、NHKのニュースなども生成AIによる音声を出している。

今回の露講師の講演は「非常に分かり易かった」という声が多く、参加者からは好評でした。

十月度理事会議事録

■日時 令和七年十月十六日(火) 午後六時

■場所 組合会議室

■出席者 北島憲高 本間

敏道 保坂知彦 清宮和夫

前田

智信 藤井雅一 藤井崇徳

平山雄太

■欠席者 なし

■議題

①DX人材育成事業について

本間専務理事よりかねてより東京都中央会の「DX人材育成事業補助金」を使って十一月十一日(火)午後6時より、秋葉原インスタベースにて開催することが決定し、すでに組合員に案内状を送付しているが、今後DXやAI、ChatGPTには無関心でいられなくなってくるため、我々の仕事にどう生かせるのかについて勉強してほしいと説明がありました。

②合同支部会(忘年会)開催について

例年の合同支部会(忘年会)は、十一月五日(金)か、は来年一月八日(木)午後一二日(金)の開催が決定し、

会場の手配をすることになり、勉強会については今後検討することで承された。③年次大会大阪大会について

年次大会大阪大会は十月二十四日(金)にシエラトン都ホテル大阪にて開催されるが、当組合からは協賛を含めて二十四名が参加することになったと報告があった。

④各委員会活動の活性化について

本間専務理事よりこれまで委員会活動が停滞しており、二か月に一度の理事会だけで組合を運営しているのは異常な状態であり、他の組合は委員会活動が機能しておりセミナーや勉強会を活発に行っている。これを正常に戻さなければ組合の今後が心配だという説明があり、今後委員会活動に正常に戻す努力を理事ひとりひとりがしてほしいと要請がありました。

⑤合同賀詞交歓会について

恒例の合同賀詞交歓会は来年一月八日(木)午後五時より開催が決定してい

るが、今回は正札シール組合の担当なので受付だけになると報告があった。⑥組合員メーリングリスト作成について

北島理事長より組合のメーリングリストが、以前に作成したが中途半端になってしまっているの、今回改めて整備していくと報告がありました。

⑦ラベル会開催について

ラベル会は十二月二十三日(火)にいつもの佐倉カントリー倶楽部で開催が決定し、すでに案内状が送付されていると報告がありました。

⑧組合創立六〇周年について

本間専務理事より来年五月二十二日(金)に開催予定で、前回の五〇周年と同じで組合総会後の懇親会を祝賀会にすることで承され、年明けに実行委員会を発足させることが了承された。また、いつも「交通安全ステッカー」を一万五千枚作成して蔵前警察等に配布しているため、今回もシーレックスに協力を打診したところ、協力を快諾し

てくれたと報告された。⑨タック紙値上げについて

タック紙の値上げの話が各社からすでに来ており、今後については組合員で情報を共有して対応していくことで了承された。

終了午後七時

「組合まつり」開催
全国から「技と食」が

東京都中小企業団体中央会主催の「組合まつり」は、十月二十九日、三十日の二日間、東京有楽町の東京国際フォーラムにて開催され、全国から「技と食」が大集合し盛大に開催されました。



寄稿 No7

この20年で大きく変わった印刷 DX、AIをどう取り入れるか

(株)フジラベル印刷 藤井 雅一



私は前職のT&K TOKA（印刷インキメーカー）より二〇〇四年にフジラベル印刷に戻ってきて20年以上が経ちました。

この二十年の間に会社の浮き沈みを経験しながら何とか今日に至りました。当然インキの知識はありましたが、経営の知識は皆無に等しい状態でした。

そのため決算書などもまったく読める状態ではありませんでした。また、自分の会社が印刷関係のいくつかの組合に入っている事が分かり、右も左も分からないまま、とりあえず参加してみました。

そこでは様々なテーマの勉強会があり、多くの事を学びました。特に経営関係の勉強会は私にとって大変になりました。

また懇親会などのお酒の席では、多くの方と知り合い、沢山の関係を築くことが出来たと思います。

この二〇年で印刷業界も大きく変わったと思います。デジタル機の普及・広がり、デジタル機がドーンと展示され、デモンストレーションが行われていたのが、今ではあまり見る事が出来ず、デジタル機が所狭しと展示されています。

デジタル印刷の品質も日に日に良くなり、これがデジタルで印刷したのかと驚くほどキレイに仕上がります。

組合員（親会・青年会）の年齢が上がり、組合員数の数も年々減少傾向にある中、新しい物・事を取り入れ、業績を伸ばし続ける頼もしい仲間が沢山いるのがこの組合の良い所かなと、最近実感するようになりました。

あまりにも進歩のスピードが速すぎて、中々追いついていけない部分もありますが、既に取り入れて結果を出している人から、情報共有や教えてもらいたいと思えます。

最近では特にAIに興味、関心があり、先月組合主催で開催された「DXセミナー」に参加させていただき、大いに参考になりました。

最後に私個人の事と言えば、昨年の4月に断裂した前十字靱帯の再建手術をして、先日は膝に残っていたネジを取り除く手術をし

て、あとは来年4月の術後2年の完全終了までもう少しです。

運動は問題なく出来るので、リハビリ目的でジムに通いながら、これからも精力的に動けるようにボデイメンテ中です。

これと合わせて血圧対策の為に無添加のトマトジュースを飲み続けるも、今の所は血圧が下がるところか逆に上がってしまったという有様。

年齢も五〇歳を超え、体の自由が徐々に効かなくなってくる年頃、気づけば自分より年が下で元気な人達が多くなってきた今日この頃です。

これから公私ともに元気に過ごせるように頑張っていきたいと考えるオッサンと真ん中の藤井でした。皆さん、今後とも宜しくお願いいたします。

※組合では組合員・会友、協賛会の方々から、原稿を募集しています。紀行文、随筆、会社紹介、自己紹介等々、是非組合までお寄せ下さい。

■冬に多い突然死とは
突然死の定義には諸説ありますが、症状の発現から二十四時間以内に死亡に至ることとするのが一般的のようです。もちろん、外傷・事故などの外因死や自殺は含まれません。

No217 健康がいちばん!

気を付けたい冬に多い突然死

ヒートショックで 1 万 4 千人

■突然死の原因とは

突然死の原因としては、心疾患、脳血管障害、呼吸器疾患などが挙げられますが、救急外来に心肺停止状態で救急搬送され、解剖がなされないことも多く、死因の確定診断がつかないことが多いのが現状です。日

本では年間約十万人の方が突然死で亡くなっていると推計もあります。また、当該施設で死因が

特定された突然死一三一例のうち、心疾患が全体の約七〇%を占め、その約三分の二が狭心症・心筋梗塞で、他に重症不整脈、大動脈破裂・解離、心筋症などがあるとの報告があります。

次に多いのが脳血管障害で、全体の約二〇%を占め、そのうち約半数が脳出血でもくも膜下出血、脳梗塞が続きます。

■リスク要因と生活習慣
心筋梗塞や脳梗塞・脳出血は動脈硬化が主な原因で、糖尿病・肥満・高血圧・高脂血症・喫煙などがその危険因子です。

言い換えれば、生活習慣を改善することで突然死のリスクを減らすことができますという事です。生活習慣を改善するためには、以下の習慣を日常の生活に取り入れることが大切です。①毎年健康診断を行い、異常を指摘されたら放置せず精密検査を受け、必要な治療に繋げる。

②体調不良を感じたら、我慢せず医療機関を早めに受診する

③禁煙する

④一日三食をバランスよく食べる

⑤定期的な有酸素運動をする

⑥十分な睡眠をとる

⑦ストレスを貯めないよう心掛ける

■冬場はヒートショック
さらに、冬場の突然死の原因として忘れてはならないのが、ヒートショックです。ヒートショックとは、温度の急激な変動に伴い、血圧が乱高下することが起因となる病態です。冬場の入浴時に最も多く発生しています。

暖かい居間から寒い脱衣所・浴室へ、次に暖かい湯船につかることで、血管は収縮拡張を短時間の間に繰り返し身体が対応しきれなくなり、心筋梗塞、脳卒中等など重篤な状態を引き起こします。ヒートショックが原因と思われる入浴中の事故で、年間一万四千人の方が亡くなっているとも言われています。もちろん、

意識を失い湯船で溺死する方も多いので、突然死の割合がどの程度かは明らかではありません。しかし、決して無視できる数字ではないことは明らかです。

では、ヒートショックを予防するにはどうしたらよいのでしょうか。まず、温度差をなくす観点から、シャワーでのお湯張り・風呂のふたの開放・日没前の入浴・湯温を40℃程度に設定などが現実的で、すぐにも実行可能な方法と思います。近年のヒートショックによる死亡例は六五歳以上の高齢者がほとんどで、高齢者の入浴中は特に注意が必要です。

■生活習慣の見直しを

突然死は高齢者のみならず、いつ誰に起きてもおかしくありません。特に、高血圧・糖尿病・高脂血症など持病のある方、肥満や喫煙などリスクを抱えている方はできる限り速やかに生活習慣を見直し、危険回避を心がけましょう。

【参考資料】

<http://ohp-service.com/column>